

# 温帯低気圧の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策 R 6 - 7  
令和 6 年 1 0 月 3 1 日  
農林総合研究センター

## I 被害防止対策

非常に強い台風 21 号は、明日には温帯低気圧に変わる見込みですが、11月2日から4日にかけて、本州付近の前線に暖かく湿った空気が流れ込み、警報級の大雨や暴風となる恐れがあることから警戒が必要です。

最新の気象情報に十分注意し、万全の対策を講じて下さい。

### 〈要旨〉

- 1 能登半島地震で揺れの大きかった能登地方では、地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まる恐れがあるので、安全確保を最優先とし、以下の対策を講じる。
- 2 大雨に備え、再度、排水路を点検・連結する等、排水対策を徹底する。
- 3 収穫期を迎えている大豆では、できる限り収穫作業を進める。
- 4 大麦の播種作業は、土壌が乾く等、ほ場条件が良くなるまで待つて実施する。
- 5 園芸品目は、長期の停滞水によって根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良、落葉等の生理障害を生じやすいため、ほ場の排水を徹底するとともに草勢維持や病害対策に努める。
- 6 りんご等収穫期に入っている果樹では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。

### 〈各農作物等の対策〉

#### 1 大豆

##### (1) 事前対策

- ・大雨に備え、排水路を点検・連結しておく。

##### (2) 事後対策

- ・浸水したほ場では、ほ場内や排水路の停滞水を無くすため、できるだけ早く溝の流入土砂の除去や手直しを行い、必要であれば新たな排水路の設置を行う。

- ・長期の滞水は、生育遅延や根腐れを引き起こすので、速やかに排水対策を徹底する。
- ・収穫期となっているほ場では、できる限り収穫作業を進める。
- ・着色粒や腐敗粒等の品質低下が見られる場合は、品質ごとに分別して調製を行なう。

## 2 大 麦

### (1) 事前対策

- ・大雨に備え、排水路を点検・連結しておく。
- ・播種～苗立ち期となっているほ場では、額縁排水により、湿害を防止する。

### (2) 事後対策

- ・浸水したほ場では、ほ場内や排水路の停滞水を無くすため、できるだけ早く溝の流入土砂の除去や手直しを行い、必要であれば新たな排水路の設置を行う。
- ・播種作業が遅れているほ場では、土壌が乾く等、ほ場条件が良くなるまで待つ、可能な限り速やかに播種を実施する。

## 3 野菜・花き

### (1) 事前対策

- ア 施設野菜・花き（トマト、きゅうり、軟弱野菜、ストック、はぼたん等）
- ・大雨に備え、ハウス周囲の排水溝を整備し、施設内への浸水を防ぐ。
  - ・施設内に風雨が吹き込まないようにハウスサイドは閉める。ハウスビニールのバタつきを防ぐためにハウズバンドを締め直し、破損箇所は補修する。
  - ・換気扇が設置されている場合は、暴風時に施設を密閉し、換気扇を稼働させて、施設の内圧を下げて、フィルムの浮き上がりを防止する。
- イ 露地野菜・花き（だいこん、かんしょ、ねぎ、ブロッコリー、かぼちゃ、きく、はぼたん等）
- ・大雨に備え、ほ場の排水溝を整備する。
  - ・なすや豆類等の棚仕立ての品目では強風に備え、筋かいや直管で棚を相互に連結し、杭で棚を固定する。
  - ・きくやはぼたん等立体栽培の花きは、鋼管支柱を3～5m毎に打ち込み、ネットを補強する。

### (2) 事後対策

- ア 施設野菜・花き（トマト、きゅうり、軟弱野菜、ストック、はぼたん等）
- ・通路等に停滞水がないよう、表面排水に努める。
  - ・湿害による根腐れで草勢の低下が著しい場合は、液肥の葉面散布や摘果を行い草勢の回復に努める。
  - ・施設内が過湿となりやすいため換気に努めるとともに、病害が発生しやすいので、予防防除を行う。

- ・ハウスのビニールの飛散・破損は速やかに修理する。
- イ 露地野菜・花き（だいこん、かんしょ、ねぎ、ブロッコリー、かぼちゃ、きく、はぼたん等）
- ・畝間等の停滞水は根腐れによる草勢の衰えや病害の発生につながるため、排水溝を掘って迅速に排水する。
  - ・冠水した場合は、疫病や軟腐病が発生しやすいため早急に防除を行う。また、茎葉が泥水等で汚染された場合は、規定の範囲の量の薬液で洗い流すように防除する。
  - ・土砂が流入した場合はできる限り排除し、流入堆積した表土が乾いて固くならないうちに中耕して、根への通気を促す。
  - ・速効性肥料の施用や液肥の葉面散布を行い草勢の回復に努める。

## 4 果樹

### (1) 事前対策

#### ア 栽培施設の点検、補強

- ・防風施設は、ネットの破れや固定が不十分なところがないか点検し、補修を行っておく。
- ・果樹棚やハウス等の施設は、事前に点検し、支柱・アンカーの補強や棚線・ハウスバンドの締め直しを行う。
- ・棚の上下動に伴う枝の損傷や落果を防ぐため、支柱・アンカー等で棚面をしっかりと固定する（図）。
- ・リンゴのおい化栽培では、支柱の上部をワイヤー等をつなぎ、揺れ止めの固定を行う。
- ・ブドウの収穫が終了した園では、速やかにビニールを除去する。

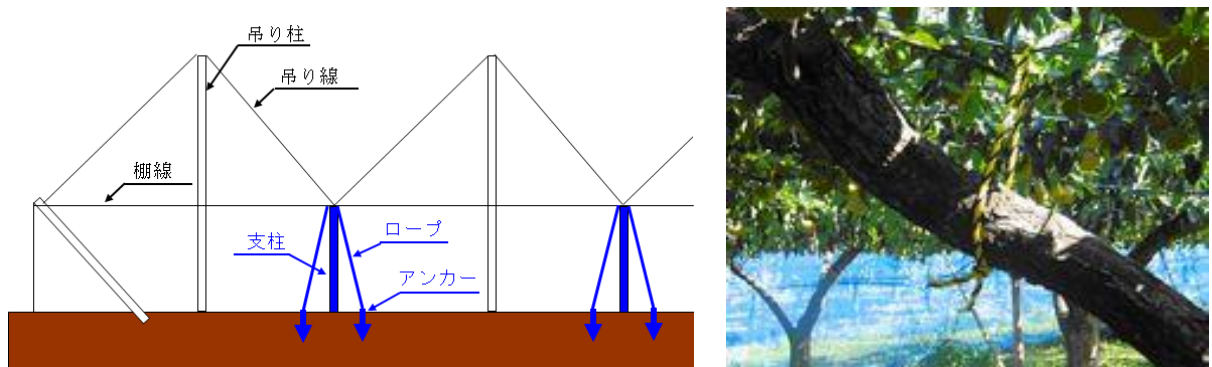


図 果樹棚の揺れ止め補強例

#### イ 樹体管理

- ・園外周の排水溝や園内の明渠等により、降雨後は直ちに排水できるようにする。
- ・収穫期に入っている樹種では、熟度を確認し、収穫可能な品質に達している果実を早急に収穫する。
- ・高接ぎ等の接ぎ木部分は、風に弱いため、支柱を添えて必ず補強する。

- ・リンゴのわい化栽培は、倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強する。

## (2) 事後対策

### ア 栽培施設

- ・果樹棚、ビニールハウス、防風施設等の破損箇所は、早急に補修する。

### イ 樹体管理

- ・停滞水による根の機能低下が品質低下や裂果、生理落葉等の生育障害を招くので、停滞水がある園では、明渠等により速やかな排水に努める。
- ・土壌流入が多い場合（堆積土5 cm以上）は、なるべく早く樹冠下の土砂を取り除き、根の呼吸作用を助ける。土砂流入が少ない場合（堆積土厚5 cm未満）は、そのまま中耕し、土壌の通気性を確保する。
- ・倒伏樹は速やかに起こし、三方から支柱を添え、再倒伏しないよう補強する。
- ・太枝が裂けた場合は、ボルト等で止めるか縄等でしばり傷口を接着させる。
- ・打ち身やすり傷を負った果実は、軟化、腐敗が懸念される。収穫可能な果実は直ちに収穫し、食用、加工用、廃棄するものに区別し、適正に処理する。

## 5 畜産・飼料作物

### (1) 事前対策

- ・畜舎へ雨水等が入りこまないよう、畜舎周囲の排水路の点検整備や排水路の確保を行う。また、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。
- ・畜舎内に風が吹き込まないように、窓、戸等に破損箇所がある場合は速やかに補修する。
- ・暴風時は風向きを考慮し畜舎の開口部を最小にして、換気扇を適宜稼働させて換気を行う。
- ・停電によって搾乳作業やバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。
- ・飼料畑ほ場に排水溝を設けて表面排水を徹底する。
- ・ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、網をかける等強風による破損を防止する。

### (2) 事後対策

- ・土砂災害により、畜舎に通じる道路や圃場に危険が及ぶ恐れがあるので、降雨が収まってから、周囲の状況確認を行う。
- ・畜舎施設のライフラインや機械器具を確認し、異常があれば業者に連絡する等速やかな対応に努める。
- ・畜舎が冠水した場合は、天候が回復次第、泥の排除、水洗を徹底し、乾燥させた後消毒を行う。機械器具等も洗浄、消毒を徹底する。
- ・飼料作物の長期滞水は、生育遅延や根腐れを引き起こすので、滞水した圃場は排水溝を掘る等、すみやかな排水に努める。
- ・ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損

箇所がある場合は、再度ラッピングする、テープを貼る等サイロの気密性確保に努める。